

問題		得点率 (%)	問題		得点率 (%)
1	問1	21.9	2	問1	67.3
	問2	35.8		問2(1)	86.0
	問3	69.4		問2(2)	35.8
	問4	75.1		問3	7.5
	問5	74.3		問4	46.8
	問6	73.2		問5	56.6
	問7	65.4		問6	53.2
	問8	74.0		問7	97.5
			問8	29.8	

合格者最高点 81

合格者最低点 32

1 出典：重田園江『ホモ・エコノミクス——「利己的人間」の思想史』

問一 「スーパーで買い物をするとき」の一般的な行動を問うものです。すなわち 16行目「こうした行動」にあたる最も簡潔に述べた内容を抜き出します。18行目～19行目に「取引における最適行動」があります。これが正解です。傍線箇所より後ろにある表現に注意がいかなかったと思われる答案がかなりありました。

問二 なぜ筆者は「近代性」と強調しているか、その理由を問うものです。24行目に「近代以前には一般的な価値観ではなかった」とあり、ここが理由に当たります。また、30行目～34行目に「ホモ・エコノミクス」を説明した箇所があります。そこから「自己利益」「合理的計算」「金儲け」の要素を取り出してまとめます。「近代以前」「近代以降」という区分ができていない答案が多く、また「自己利益」「合理的計算」に言及できた答案も少ないようでした。

問三 「いまでは忘れ去られたこうした歴史をたどる」、つまり 37行目～56行目の内容に対する理解を問うものです。17～18世紀以前のヨーロッパでは肯定的に受け入れられていなかった「金儲け」が、今では当然とされています。そのことを歴史的にたどることでいかにして受け入れられていったのかを知ることができると筆者は述べています。従って正解はエになります。アは「市場化がいかにしてなくなったのか」、イは「利子により金銭を蓄積し、...いかにしてなくなったのか」、ウは「自己利益を目指して...いかにしてなくなったのか」が、いずれも文脈とは逆の内容です。全体的によくできていました。

問四 「根本的に誤った価値観と結びついているのではないか」と筆者が述べていることの原因を問うものです。62行目～63行目より「平和な経済成長は...解決するという考え」に基づいて「富と豊かさを追い求めてきた」ということが、65行目～70行目「だが...一気に噴出する。...資源の食いつぶしであり、...増えすぎた人口を...人間以外の生物や環境は、...悲惨な目に遭っている」ということです。ここをまとめて書きます。よくがんばって書いている答案もありますが、悲惨な目に遭っている主体について、「人間以外の動物」に言及できた答案は少なかったようです。

問五 「一八世紀の富と徳の問い」について、そのまま【文章Ⅱ】のアダム・スミスの考えをまとめる問題です。【文章Ⅱ】末尾の箇所、すなわち 137行目に「自由貿易と産業による豊かさを奨励した」とあります。そのことはしかし、104行目ですでに「深刻な道徳的影響を与える」とスミスは述べ、そして 134行目「本来両者は別のものなのだ」、136行目「少数のまともな人間として徳の道を選ぶこと」を主張しています。この一連の流れをまとめます。答案では、「自由貿易と産業による豊かさを推奨」を導き出す点がやや大変だったようです。「富と徳の両立は困難」「富と徳は別物」などは書け

ていました。ただ、「財産の追求が道徳的には悪影響を与える」という点にまでの確に書けている答案も少なかったです。

問六 Aは逆接の「しかし」が入ります。Bは添加の「しかも」が入ります。Cは比較選択の「むしろ」が入ります。Dは順接の「そして」が入ります。B「しかも」(累加)、C「むしろ」(比較・選択)、を間違えている答案が多かったようです。

問七 アは「指標」、イは「非難」、ウは「広域」、エは「従属」、オは「過程」です。ア「指標」が書けていない答案が目立ちました。

問八 内容一致問題です。正解はウです。ウの前半は【文章Ⅰ】、後半は【文章Ⅱ】の内容と一致しています。アは「キリスト教道徳に基づく考え方」が誤りです。イは「アダム・スミスの業績により、...真剣に問われることはなくなった」が誤りです。エは「同じ性格のもの」「両者を併せ持つ」が誤りです。ほぼできていました。

2 出典：戸森しるこ『ココロノナカノノ』

問一 1「肩(かた)」で風を切る、2「胸」を張る、3「鼻」高高、4得意「満面」、5「あご」で使う、がそれぞれ正解です。よくできていました。

問二 (一)は、14行目～20行目「野乃のにおいがする」「なつかしいみたいなおい」「家の中で、学校の廊下で、駅前通りで、ショッピングセンターで、プールサイドで」といった箇所から根拠となる要素を取り出します。また2行目から、「野乃」は寧音にとって、死んだ双子の妹であることがわかります。これらをまとめて指定字数以内に収めて書きます。全体的によく書けていましたが、「なつかしいにおい」まで書き切れていない答案も目立ちました。(二)は、「誰にもしなくなった」ことの理由を説明します。38行目～44行目「でもしかたない。…あきらめればいい。」の内容をまとめます。「経験しないとわからない気持ちは経験していない人にはわからないとあきらめた」という内容になります。「経験しないとわからない気持ちは経験していない人にはわからない」「あきらめた」の3要素を満たしている答案が正解ですが、満点は少なかったようです。

問三 「蚊(か)の鳴くような声」が正解です。「か(蚊)」ではなく、「虫」と書いてしまった答案が目立ちました。

問四 「わたし」(寧音)にとっての「野乃」と、「比企さん」にとっての「スウ」は、どういう点が同じか、また107行目「決定的に違う」のはどういう点か、というところをおさえて記述します。「スウ」は「一度も存在していなかった」、「野乃」は「奈菜ちゃんのおなかの中でたしかに存在していた」、という違いを書きます。その上で、「寧音」と「比企さん」は、116行目から、「見えないものを大切にしている」という共通点が導き出します。これらをまとめて記述します。寧音の妹の「野乃」が実在したことと、比企さんの友人「スウ」が実在していないこととの対立構造でしっかり書いている答案は少なかったようでした。

問五 「寧音」の、「テーブル」の「おそば」に対する考えの変化を問うものです。123行目～124行目から、「奈菜ちゃん」(母)は「おうどん派」だったので、132行目から、寧音は「不気味」でした。そこをおさえた上で、146行目「奈菜ちゃんに赤ちゃんができたのだ。」を根拠にし、155行目～156行目「妊娠すると食事の好みが変わるって、…」へとつなげます。この流れに沿って説明されているのは選択肢アだけです。イ「気が変わったのだろう」、ウ「寧音の気持ちを確かめて」、エ「『おねえちゃん』になる寧音を配慮して」、というのがそれぞれ誤りです。よくできていました。

問六 「そう思った瞬間、胸の中がチクリとした気がした」という「寧音」の気持ちをまとめる問題です。162行目からの「新しい家族ができる！新しい家族！」や、166行目「今度は本当に『おねえちゃん』って呼ばれるんだね」から、「寧音」

の喜ぶ思いがわかります。ところが168行目で「今度は本当に？」と「？」が付きます。この「？」は、「本当の妹ができて嬉しいが、それでは今までの野乃は(本当の)妹ではなかったのか、と自らに問いかけていると読み取れます。だから「寧音」は、ここで「チクリ」と胸を刺すような後ろめたさを感じたのです。この一連の心情をまとめて記述します。

「寧音」の内面から離れ「奈菜ちゃん」(お母さん)の出産への心配といった答案も見受けられ、全体的にポイントを見つけるのが少し大変だったようでした。

問七 Aは「しくしく」、Bは「じめじめ」、Cは「うきうき」がそれぞれ正解です。よくできていました。

問八 内容一致問題です。正解はエになります。102行目～103行目「みんながわざわざ…どうしてだろう。そう思うなら、比企さんを放っとけばいいのに」と、比企さんをいじめようとするクラスのみんなに対して「寧音」は不満に思っています。アは「『寧音』の悲しい気持ちを慰めてくれている」、イ「『かわいそう』と言われて落胆し」、ウは「野乃の存在を母はすっかり忘れてしまったのかと寂しく思っている」、というのがそれぞれ誤りです。